

# J A山形おきたまが進める「J A自己改革」

## 組合員・地域にとって

## なくてはならない存在を目指す

平成28年4月に施行された「改正農協法」では、准組合員の事業利用規制に関して、施行日から5年を経過するまでの期間において、正組合員および准組合員の事業利用状況並びに改革の実施状況をふまえて結論を得ることを規定しています。

J Aの使命は農業の発展と組合員や地域住民の暮らしを守ることにあります。そのために行う事業は農業振興や営農分野だけでなく、信用・共済・購買・福祉など多岐にわたっています。

よりよい農業・農村・地域を創り出していくためには、「相互扶助」「助け合いの精神」に根ざした協同組合運動への理解促進と、J Aの結集が必要不可欠です。

J A山形おきたまではこれまでも、「生産者手取りの最大化を図る」ことを第一に掲げ、さまざまな取り組みを行ってきました。今後も手綱を緩めることなく、より強力に「自己改革の実践」を押し進めていきます。



山形おきたま米「産地交流会」



米沢牛G I（地理的表示）保護制度登録



南陽地区に誕生した  
広域集出荷施設

# J A 自己改革の実践 生産者手取りの最大化を図る

現在、J Aグループでは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」という3つの基本目標を掲げ、「J A自己改革」に取り組んでいます。J A山形おきたまでは、これまでも「生産者の手取りの最大化を図る」ことを第一として独自の取り組みを進めてきました。

## 農業者の所得増大

### ■おきたま統一共選

J Aでは昨年、南陽市に「おきたま統一共選」の中核を担う「広域集出荷施設」を新たに建設しました。最新の選果機能を備えたこの施設の本格稼働によって、品質の「高位平準化」と「安定出荷」を一段と進め、有利販売による高値取引によって、生産者手取りの向上を目指します。



### ■高鮮度貯蔵施設

大粒ブドウ「シャインマスカット」を「高鮮度貯蔵施設」を活用し貯蔵・出荷することで、年末の需要期に合わせることで通常より高値で販売することが可能となりました。さらに、高畠町の施設に加えて南陽市に貯蔵施設を新たに建設したことで貯蔵量は倍となっています。

### ■おきたまオリジナルブランドの開発

置賜地域を象徴する商品としてJ Aが主体となって企画開発した「おきたまオリジナルブランド」。第1弾の「山形グミ おきたまデラウェア」は100万袋を超える大ヒット商品となっており、続く第2弾の「山形おきたまデラウェア アルコールフリー」、そして昨年は第3弾「おきたまデラまめ」を発売しました。地域名を活かした商品を全国的に販売していくことで、置賜の知名度向上を図り、地域ブランド戦略の要としての重要な役割を果たしています。



おきたま農業の未来のために共に進んでいきましょう！